

震災 10 周年の神戸

この 1 月 17 日は阪神・淡路大震災から 10 年が経過して、各種の記念行事が行われた。時間が経つのは早いものだ。「10 年ひと昔」というが、震災とそれ以降の動きをどう考え、どう評価していけばよいのか。10 年というのは、一つの区切りにすぎないわけで、これからも私たち自身の問題として考えていかねばならない。

震災から 10 年が経過して、地域は本当に復興したのか。写真は昨年末に、御蔵通りのあたりから長田駅のほうに向けて撮ったものである。じつは震災 1 ヶ月後に神戸に行き、まだ交通が遮断されていたなかで、長田まで歩いた。焼け野原のまちを歩いて、震災の凄まじさを実感したものである。それ以来、大阪に行った折には、長田まで足を伸ばすことにしている。



写真のように、震災から 10 年が経過して、確かに高層ビルや高層住宅などが建ち、まちが復興したかに見える。建物は建ったが、まちを歩いていて、人と出会うことが少なかった。まちに「ひと」の気配が感じられなかった。なんだかシーンとした感じで、寒さがいっそう身にしみた。これが神戸、震災から 10 年の「復興」の一端を示しているのではないか。



これからも「定点観測」的に定期的に長田のまちを歩いていきたい。そして、「まちづくり」のあり方をさぐっていきたい。

(1月19日 記)